



エネルギー大作戦が注目する「地域通貨」の取り組み。

平成26年1月18日に市民文化会館で開催した“高山エネルギー大作戦フォーラム”で幕を開けた「高山エネルギー大作戦」。これは市民のみなさんが自然エネルギーに興味を持っていただき、「自然エネルギー利用日本一の高山市」を目指していくために始まった事業です。

平成27年度は「高山エネルギー大作戦」通信として、シリーズでみなさんに情報をお届けします。

昨年立ち上がった高山エネルギー大作戦は、1月18日の“フォーラム”に続いて、市民が自然エネルギー普及のための具体的な方法や考え方を学べる機会として、数回に及ぶ“セミナー”を開催しました。主に太陽光や地熱、小水力、バイオマスなど各地での自然エネルギーの取り組み事例を学ぶ内容の連続でしたが、それまでの流れとは打って変わって、セミナー最終回のテーマは「地域通貨」でした。地域でのエネルギーの自立のためには地域経済の自立が必要で、地域経済の自立のためには地域通貨という手法が必要かつ有効、という主旨のユニークな勉強会になりました。

このときの“高山エネルギー大作戦セミナー”をほぼすべて受講し、とくに最終回の「地域通貨」の話に大いに刺激されたひとりの参加者がみえました。赤保木町に在住の山崎昌彦さんです。地域通貨の回の終わりに、その場で山崎さんは「高山で地域通貨とエネルギーの普及を目的にNPOを立ち上げる決意をしました」と宣言されたのです。山崎さんの情熱にそこにいた何人かの参加者が共鳴し、たちまちNPOが動き出すことになりました。山崎さんを代表とする特定非営利活動法人「活エネルギーアカデミー」の誕生です。まさに高山エネルギー大作戦から生まれたNPOです。

昨年7月に認可を受けた山崎さんのNPOは“**enepo**”という愛称でさまざまな市民活動を開始し、年末から市内の指定されたお店などで使用できる地域通貨『エネポ』の運



スギの間伐材で作られた地域通貨「エネポ」

用が始まっています。高山エネルギー大作戦から始まった地域通貨の実験的な取り組みについて、山崎さ

んに簡単にご紹介いたしましょう。

「高山の盆地は古の時代から森のエネルギーに恵まれ、地産地消の生活文化モデルを実現していました。それが今はどうでしょう。山をみてください。手入れされず放置された暗い山林が助けを求めています。森を救うことが急務です。間伐作業や薪割り、炭焼きなどによって森が、空気が、生き物がよみがえります。そうした山をよみがえらせるための活動に喜んで取り組んでいる人たちがいます。その人たちへの労働の対価が『エネポ』です！

10月25日、清見まちづくり協議会のご協力を得て、清見紅葉まつりにおいて地域通貨の社会実験を行いました。薪割りに協力してくれた参加者に『500エネポ』が渡され、それを当日の会場店舗で使用できるようにしたところ、14%増の経済効果を生み出しました。

現在エネポは、市内19の協賛店舗で利用でき、ひだしん各窓口で決済されます。高山の自然を守りながら、地域の経済をまわすお金。それがエネポです！」



清見紅葉まつりでの薪割り体験の様子

紅葉まつりで薪割りに100人が参加し「エネポ」をゲット！

直近の検討委員会の議事録を公式サイトでチェック

takayamaenergy.net

高山エネルギー大作戦

検索

問合先

環境政策推進課
☎ 35-3533